

学力の基礎をきたえ どの子ども伸ばす研究会ニュース

学力研の広場

ホームページアドレス <http://gakuryoku.info/>

NO. 366

2026.8.8

学 力 研 発 行

常任委員長 岸本ひとみ

ペイペイ銀行うぐいす支店 普:3607141

教科書とノートでどの子ども伸ばす

「できた!わかった!つながった!」

第67回学力研全国フォーラムが無事に終わりました。学力研がこれまで大切にしてきた「読み・書き・計算・音読」の実践を新井紀子先生が科学的に証明してくださいました。子どもたちが「考える」授業をするためには、まずは教科書を正しく読むことから始めなければなりません。私たち教師も教科書を大切に教材研究をすることが、子どもたちを伸ばすことにつながります。

今月号は、全国フォーラムのテーマに基づいて、「教科書から学ぶ教材研究」ということで、2学期に役立つ実践をたくさん紹介しています。新学期、子どもたちと共に良いスタートが切れますよう、また先生方の取り組みのご参考になれば幸いです。(李)

CONTENTS

◇特集「教科書から学ぶ教材研究」◇

教科書から学ぶ国語の教材研究	吉田雅直・・・2
説明文の読解と要約	鈴木基久・・・4
算数科の教材研究	橋口佳世・・・10
4年生の算数 子どもがつまずきを乗り越える 授業準備から教科書を見たくなる仕掛けづくり	図書啓展・・・12
	加藤英介・・・14

◇連載◇

「どの子ども伸ばす」を本気で考える連載91「意欲格差」に負けない! 公立小学校へ考える力をつけるための授業の組み立て方③教科書は教材研究の最高の参考書	岡本美穂・・・16
教科書「を」と「で」で教え・学ぶ社会歴史授業 五 第四時間目「むらからくにへ」 続き	荒井賢一・・・19
「先生のための学校」 誌上 開校	深澤英雄・・・23
	久保 齋・・・25

局長・常任委員長だより	・・・28
学力研カレンダー	・・・29

教科書から学ぶ国語の教材研究

大阪 吉田雅直

私が国語の教材研究で大切にしていることは「書くこと」「発問」「予習課題」です。

「書くこと」とは、教師が教材文を全文ノートに書き写すということです。この時、必ず子どもたちと同じマス目のノートを使います。そうすることで、子どもたちに視写させるときの適正な文字数や「ここは視写させたい」という部分が見えてきます。コピーや活字でもないんじゃないかと思われるかもしれませんが、ノートに鉛筆で、一文字一文字丁寧な字で書き写すことによって、「読む」だけでは見えていなかったことがどんどん浮かび上がってきます。いつも自転車通っていた道を歩くと、「こんなお店があったんだ」とか「こんな花が咲いていたんだ」と気づく、あの感覚です。書くのは面倒だと思われるかもしれませんが、百回読むより、一回書く方がはるかに多くの発見があります。

このとき、「おやつ」と「ひっかかり」を感じる

表現や、「ここは子どもたちに考えさせたい」という箇所があると思います。例えば、三年生の「モチモチの木」なら、豆太が夜中に目を覚ました時の「じさまあつ。」と「じさまつ。」のちがいが「モチモチの木」には、灯がついたのか?」「豆太はゆうきのある子になったのか?」という問いが浮かび上がってきます。それを元に発問や授業の流れを組み立てていくのです。

「発問」は授業の「要」であり、発問の「質」で子どもたちの思考の深さが決まると言っても過言ではありません。私の単元構成のイメージは、まず、その教材で一番子どもたちに考えさせたい「最重要発問」があり、その発問につながる「主発問」に沿って毎時間の授業を組み立てていくというものです。

「モチモチの木」なら、「豆太はゆうきのある子になったのか」というのが「最重要発問」で、その発問について本文に沿って深く考え、意見

交流させるためには「豆太のおくびようさ」「じさまのやさしさ」「見たいけど、こわいという葛藤」「大好きなじさまを助けたいという必死な思い」「モチモチの木には灯がついたのか」といったことをひとつひとつ丁寧に問いかけ、ひとりひとりに考えさせ、意見交流によってじっくりと深めていく必要があります。

つまり、毎時間の「発問」がばらばらに散らばって存在しているのではなく、ひとつの発問が次の発問につながり、最終的に大きな「最重要発問」に取り組むための布石となっていることが大切なのであり、その流れを考えるのが教材研究なのではないでしょうか。

これは、一時間の授業を組み立てる時でも同じです。例えば、「じさまのやさしさ」について考えさせる授業なら、じさまが「ぐっすりねむっている」「真夜中に」「どんなに小さい声で言っても」「すぐ目を覚ましてくれる」のも、モチモチの木の実は手間ひまかけておもちを作ってくれるのも、しゃがんだひざの中に豆太をかかえて、豆太を安心させるお話をしてくれるのも、すべて「じさまのやさしさ」につながることに気づかせます。つまり、じさまの「したこと」「言ったこと」「その理由」を考え

させるための「小さな発問」が「じさまのやさしさ」というその時間の大きなテーマにつながっていくことが大切なのであり、子どもたちが自分たちの力でその流れをつくりだすことができるようにすることが教材研究なのです。このように「最重要発問」と、その布石となる毎時間の「主発問」、さらにそれを支える「小さな発問」を設定したら、それを元に単元計画を立てて行きます。

単元計画は、「予習課題」をベースに組み立てていきます。「予習課題」とは、次の日の「主発問」を前の日に宿題として出し、家で考えて書かせるというものです。つまり、全員がその日の授業の「主発問」に対する答えを用意した状態で授業に臨むことになります。そうすることで、授業に対する構えが劇的に変化します。「今日は何をするのか」という受け身ではなく「早く予習課題を発表したい」「みんなどんなことを書いているのかな」という能動的な意識に変わるのです。また、友だちがどんなことを書いてきているのか気になるので、友だちの意見に真剣に耳を傾けるようになります。私はこれこそが真のアクティブラーニングだと考えています。

「モチモチの木」の「予習課題」の一部を紹介すると、

豆太の「ねがい」はなんですか。

この物語の「クライマックスの一文」(豆太の気持ちが一番大きく変わったしゅんかん)は、どこですか。

第一場面の中から、じさまの「やさしさ」がわかることばを見つけて書きましよう。

豆太にとって、モチモチの木は、どんな木だと思いますか。

「豆太は見た」で、豆太が目を見ましたときの「じさまあつ」と、二回目の「じさまつ」は、どちらがうと思いますか。

豆太は、ふもとの医者様へ走りながら、どんなことを考えていたと思いますか。

豆太は、ゆうきのある子になったと思いますか。それともおくびょうなままだと思いますか。理由も書きましよう。

といったもので、できるだけ子どもたちが教科書を見ながら自力で答えを見つけ出すことができそうな、それでいて多様な答えが期待できそうな発問を目指しています。

予習課題のいいところは、格差が解消できるということです。考えるのに時間がかかってし

まう子も、家で考えさせてくることで、安心して発表できるようになります。また、全員が答えを用意してくることで、多様な意見を引き出すことができ、意見交流が活発になりより深い読み取りができるようになります。

また、「予習課題」として発問を文字で固定することで、口頭での発問のように「何を考えていましたか↓どんな気持ちでしたか」など発問が少しずつ変化していくことを防ぐことができるのも大切なポイントです。

また、朝、予習課題に目を通すことで、子どもたちの思考の傾向を把握し、その日の授業の流れを見通すことができるようになります。何より、前日に予習課題を配らないといけないので、常に一歩先を見据えて授業を進めなければならず、教師の「意識」が変わることが予習課題の「よさ」だと思います。

このように、「書くこと」「発問」「予習課題」を教材研究に取り入れることで、教師と子どもたちの意識が変わり、授業の「質」が変わります。まずは二学期の教材を「書くこと」からはじめてみられてはいかがでしょうか。きっとたくさんさんの「発見」があると思います。

説明文の読解と要約

鈴木基久

2020年度の実践

【RST（リーディングスキルテスト）っぽい自作問題について】

「AIに負けない子どもを育てる」
（新井紀子著）に書いてあった読解力を測定するRSTに興味を持った。教科書が正しく読めずに、教科書の内容が理解できていない子どもがかなりいるのではないか、そして読めないまま大人になっているのではないかと指摘されていた。読解力がない人は、それを補うために記憶力に頼る学習方法が習慣となっていることが多く、中学校入学後に学力の伸び悩みが課題となっている生徒は、数学、理科、社会などで次々と出てくる学習用語の定義を理解する力、

読解力がないことと、記憶に頼る学習方法しか知らないことが問題であると書かれていた。

私は、これまで読解力は国語科の問題と想っていたが、この本を読んだ、社会科や理科、算数科の教科書をしつかり読ませ、読解力をつけていかなくてもならないと感じた。そう考えると、国語科の説明文教材の読解は、他教科の教科書を読むための大切なスキルを学習する場合だと考えられる。今回、子供たちの読解力を図るために、「ありの行列」に関係する本文とは異なる3つの文章を読んで、その内容と同じ文には○を、そうでなければ×を答える問題と、指示語の指し示す内容を答える問題を出题した。（次ページ掲載）

正誤問題は、3問中3問正解が1

6人、2問正解が6人、1問正解が2人、正解なしが0人だった。指示語問題は1問出題し、正解が9人、不正解が15人だった。指示語問題の正答率が予想以上に悪かった。

【単元テストで正答率が低かった三択問題】

えさが多いほど、においが強くなるのは、なぜですか。（正解は②）

① えさから強いにおいが出るから。

8人

② 多くのありが通り、えきをつけるから。

16人

③ ありが、強いにおいのえきを出すから。

2人

この問題は、毎年正答率が低い。「はたらきありは、えさを見つけると、道しるべとして、地面にこのえきをつけながら帰るのです。他のはたらきありたちは、そのにおいをおい、においにそって歩いていきます。そして、そのはたらきありたち

【RSTっぽい自作問題】

1 ありがおしりのところから出すえきにおいては、ありのしゅるいによってちがうことも分かりました。それで、ちがったしゅるいのありの道しるべが交わっても、けっしてまようことがなく、行列がつづいていくのです。

2 同じしゅるいのありは、道しるべとなるえきにおいても同じです。しかし、道しるべのそばには、同じ菓のなかまがつけたえきだと分かる、べつのにおいものこっています。そのにおいによって、なかまのこした道しるべをたどることができません。ただ、ときにはまちがつてしまうこともあるようです。

名前()

次の文が正しければ○、まちがっていれば×を書きましょう。

☐ ① ちがうしゅるいのありの道しるべが交わっても、けっしてまようことがなく行列がつづくのは、えきのにおいがちがうからである。

☐ ② ちがう菓にすむ、同じしゅるいのありの行列が交わっても、ありはぜったいにまよわない。

☐ ③ そのにおいとは、何ですか。

3 ありは、道しるべになる、においのあるえきだけでなく、他にもいくつかの、においのあるえきを出してなかまとつたえ合っています。

たとえば、てきなどのきけんが近づいていることを知らせるときに出すものや、なかまを集めるために出すものなどがあります。

☐ ④ ありは、なかまとつたえ合うために、においのあるえきを出している。

アンケート

この問題はどうでしたか。

かんたん ふつう おずかしい

も、えさを持って帰るときに、同じように、えさを地面につけながら歩くのです。そのため、えさが多いほど、においが強くなります。」と8段落に書かれている。えさが多い↓(多くのありがえさを地面につけて歩く)↓においが強くなる のように()の部分を読み取ることができない子が多いので正答率が低いのではないかと考えた。

【要約について】

要約については、中学年で指導するように書かれている。今回、単元の最後に感想だけでなく、中心となる語や文を見つけて要約したことは、言語活動として妥当だったと考えている。

光村図書の4年生の教科書では、要約する「世界にほこる和紙」という単元がある。4年生で「要約」という言葉が出てくることを考えると、3年生では要約の難易度を下げる手立てが必要だと思う。要約の目的、

相手、分量をどのように設定するかによって、難易度は変わる。

相手…「ありの行列」を読んだこと

のない人

目的…文章の内容の大切なことが伝

わるように

分量…4〜5文。200字程度

要約を易しくするためには、

・使うキーワードを示す(におい、

とくべつのえき、たどる、実験など)

・重要な段落を示す。

・何人かに発表させてから書くようにする。

・教師が書き出しを示し、続きを書くようにする。

仮説

3年生以上で「説明文の要約」が

説明文理解の指標になるのでは？

・要約するためには、文章全体の内容を正確に把握する必要がある。

・文章の組み立て、段落相互の関係

が分かっていると、大切な事柄が見

つけやすい。

・要約するには、中心となる語や文を見つけることが欠かせない。

※高学年では、「文章全体の構成を捉えて要旨を把握することを指導する」と示されている。

【児童が書いた要約文】

A児

なぜ、ありの行列ができるのかを

ウイルソンという学者が調査した。

まず2つの実験をして、このような

予想を立てた。「地面に何か道しるべ

をおいているのではないか。」研究を

行つて、結果はおしりからとくべつ

なえきを出すことが分かった。この

においをたどつてえさのところへ行

つたり巢に帰つたりするのでありの

行列ができる。この実験でウイルソ

ンは、ありの行列のできるわけを知

った。

B児

「ありの行列」が説明しているこ

とは、なぜありの行列ができるのか

ということですが。ものがよく見えな
いありたちがなぜ行列を作るのかを
アメリカの学者ウイルソンが2つの
実験で調べました。調べた結果、ウ
イルソンは「ありは何か道しるべを
つけているのかも」と予想しました。
ウイルソンははたらきありの体を研
究したことから「ありはおしりのと
ころから特別なえきを出す。」ことが
わかりました。ありはそのにおいてを
たどって行列を作っていたのです。

C児

アメリカのウイルソンという学者
があの行列について調べました。
さとうの実験をしてあの行く手を
さえぎってみました。ウイルソンは
ありが何か道しるべをしていないか
考えました。そこでウイルソンは、
ありについて調べ、ありは特別なえ
きをだすことに気がきました。ウイ
ルソンはあの行列ができるわけを
知りました。

「あの行列」の要約に欠かせな
いキーワードは、道しるべ、えき、
においてあり、A児とB児の要約は
3つのキーワードの関係が正しく説
明されている。

一方で、C児は、道しるべとえき
を使っているが、肝心においてにつ
いて触れていない。えきを出すこと
と行列ができることが、つながらな
いので要約として不十分である。

2021年度の実践

3年生の説明文教材「こまを楽し
む（一学期）」「すがたを変える大豆
（二学期）」「あの行列（三学期）」
で学習用語を正しく使う授業をし、
学び方の積み上げができるようにす
る。

説明文が理解できているかの指標
として、子供が書いた要約文が使える
のではないかと考えられるので、
通常は4年生で学ぶ要約に3年生で
取り組む。

子どもが書いた要約文を比較し、
どの要約文がよりよいものなのか、
考察する。

2学期「すがたを変える大豆」の
学習の最後に1学期に学習した要約
について復習した。

要約とは、文章の大事なところを
短くまとめること、各段落の要点を
つなげて、始め・中・終わりでまと
めること、始めには問い、終わりに
は筆者の考えを書くことを確認した。
書き始めて問いのみ書くのではなく、
書き始めにふさわしい言葉を加えて
文を書くように指示したところ、改
善が見られた。

- ・ 問いを書かなかつた子。…1人
- ・ 箇条書きのように書く子…0人
- ・ 始め・中・終わりの構成で要約文
が書けた子 …11人
- ・ 中の各段落の要点を順番通りすべ
て書けた子 …13人
- ・ 中の各段落の要点が抜けている子
…3人

・一人では、書けなかった子…7人
課題

・始め、中、終わりの構成で書けた子が半数。本文のように工夫ごとに段落に分けた子が数名。

・始めをどう書いてよいか分かりにくい。

・問いの文や要点が抜ける子が数名いた。

子どもたちの要約文から考えたこと

① 3学期には全員ができてほしいこと

こと

・始め、中、終わりの構成で要約文を書く。

・問いの文を入れる。

・要点を順番通りに入れる。(要点を抜かさない)

② さらにレベルアップするために

・始めの書き方(話題提供+問いの文)

・つながり言葉の使い方

・自分なりの表現、言葉の切り取り方

「こまを楽しむ」は、各段落の1

文目が要点になっていたので簡単だったが、「すがたを変える大豆」は段落によって書きぶりが異なるところが難しくなっていた。さらに「ありの行列」は中の構成が複雑になるので、ただ羅列するだけでは要約文が書けないと思う。中の部分の段落相互のつながり、組み立てがどうなっているかを十分に理解できるようにする必要を感じる。

学期ごとに3つの説明文で要約文を書くことは、教材文の難易度が上がっているので全く同じことをしているわけではない。要約という難しい課題だからこそ、繰り返し学ぶことで苦手な子も無理なく身に付けることができるのではないかと思う。

子どもの理解や表現力を把握するのに、教材文が4年生に比べて簡単にな3年生から、要約文に取り組み価値は十分にあると考える。

2022年度の実践

(2年 説明文「おにごっこ」)

「この文章は何が言いたかったの？」に答えられることが、低学年でも文章を理解度の指標になると考えている。そこで、この問いに対する考えを単元の始めと終わりに書かせたら、何らかの変容が見られるのではないかと考え、初めて取り組んだ。

学習後に「この文章は何を言いたかったのか」をノートに書いた。その後で「読解記憶」の話を思い出し、

教科書やノートを見ないで、子どもたちはどの程度「この文章は何が言いたかったのか」に答えられるのか6名の児童に質問した。国語が得意な数名の子は、考えながら話したが、1・2文程度の長さだった。国語が苦手な子は何も覚えていなくて言えなかった。うまく言えない子には「筆者は、おにごっこが、の、で…」に続くように語型を示した。言葉に詰まったときに、合いの手となる言葉をかけるとキーワードが出てくる子が3人ほどいた。

a児 評価A

森下はるみさんは、読んでいるみんなに、鬼ごっこをする場所や仲間のことを考えてやるともつと楽しくなるよって言いたかったんだと思います。

b児 評価A

小学生のみんなに鬼ごっこのお話を読んで、鬼ごっこの楽しさを伝えなかったと思うし、もし次に鬼ごっこをやるときにはこの教科書に載っているお話とかをたくさん遊んでほしいし、この遊び方からいろんな遊び方の鬼ごっこを作ってほしいんじゃないかなと思います。

c児 評価S

森下はるみさんが言いたかったことは、鬼ごっこの楽しさとうすれば鬼ごっこがもつと楽しくなるよってという遊び方や、ここからここまで逃げていいとか、ここまで逃げちゃダメとか、そういうところを決めるルールとかをみんなに教えて、この鬼ごっこっていう文を書いたと思います。

d児 評価A

鬼ごっこはきまりを付け足すだけで色々楽しくなる。逃げる人も疲れた人も決まりを付け足すだけで楽しく遊べると思いました。

e児 評価C (何を伝えたかったのか言えていない)

森下さんは、にげる人と鬼の人のために伝えたかったと思います。にげやすいとか、有利とか不利とか。

f児 評価D

何度質問しても何も言えなかった。

テストが終わった人から順に呼んで、合計27人に同じ質問をした。

最後の段落の言葉から、「①遊び方、②楽しさ、③ルールの付け加え、自分たちにあった鬼ごっこ」が入っているかで評価した。3つがS、2つがA、1つがB、0こがC、何も言えないをDで評価した。

結果は、S1人、A7人、

B11人、C4人、D4人だった。

調べてみて分かったことは、何も見ないで記憶をたよりにすら答ええるのはかなり難しいということだ。ノートに書けていることが基になって話せている子がいる一方で、ノートに書けていることが十分に話せていない子もいた。普段の国語の様子から教師が予想したのとは違う評価になった子が3人ほどいた。言わせてみないと言えるか分からないと感じた。

国語が苦手な子は、理解できていることが少ないので記憶できず、言うことができないのではないかと分析した。キーワードそのものの理解とキーワードとキーワードの関係やつながりの理解の両方が必要だと感じた。

「読解記憶」について、今回初めての取り組みだったが、文章の要旨につながることを尋ねられたときに自分の言葉で答えられれば、学んだことが身に付いた状態になっていると言えるのではないかと思っている。

算数科の教材研究

大阪

橋口 佳世

昨年に引き続き今年度も新規採用の先生と学年を組み、2年生の担任をしています。今回は、昨年度の9月に算数科「かさ」の単元で研究授業を行った際の教材研究について報告します。

まず「かさ」の導入部分を本時として設定しました。教科書と指導書を読み、おおまかな授業の流れを組み立てました。

導入 ↓ 展開 ↓ まとめ

次に授業の発問を考え、予想される子どもの意見を書き出しました。1年生の算数の教科書を確認すると「おおきさくらべ」で「かさ」という言葉を学習していたので1年生では出てきており、覚えているかの確認をすることにしました。

それと同時に板書計画を考えました。板書が決まると実際に、教科書に掲載されている絵を拡大したものや、課題を書いた短

冊を作成し、配置を確認しました。一番後ろに座っている子どもからも、黒板の下に書かれた文字が見えるかどうかなども確認しました。

本校では、算数の教科書として啓林館のものを使用していますが、教材研究を進めるにあたり、他社の教科書とも比較しました。他社はdが始めに出てきていたのですが、啓林館はdから出てきていたのdから入りました。



私が低学年の授業で大切にしていることは、次の3点です。

- A、具体物を掲示すること
- B、操作活動や動作化を取り入れること
- C、実際に体験させること

授業の流れ

教科書を始めは見せず、黒板に「かさ」と題名を書きました。

T 『かさ』という言葉聞いたことがありませんか。どのような意味だと思いますか。

C 水の多さかな。

C 水の重さ。

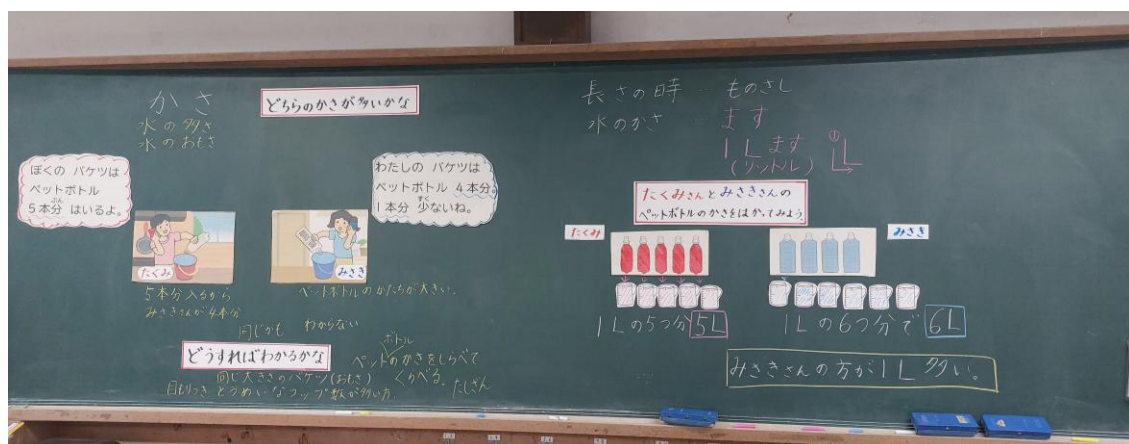
次に、教科書に登場する男の子と女の子の会話文を黒板に掲示しました。段ボールで作った携帯電話を使い、子ども2人に実際に会話をしてもらいました。子どもたちは、役になりきるのが大好きなので、たくさんの子どもたちが手を挙げました。

続いて、男の子と女の子が使っている、形の異なるペットボトルの絵を掲示しました。ここで、どちらの入れ物のかさが多いかを予想させました。

T どちらのかさが多いと思いますか。

C 5本分入るから男の子の方が多い。
 C 女の子の方がペットボトルの大きさが大きいから女の子の方が多い。
 C わからない。おなじかもしれない。
 T どうすればどちらのかさが多いか分かりますか。
 C 同じ大きさのバケツではかる。
 C ペットボトルの水のかさを調べて比べる。
 C 目盛りつきのとうめいなコップではかり、数が多い方をしらべる。
 C たしざんをする。
 などの意見がでました。
 そこで1学期に学習した長さの単元をふり返りました。
 T 長さを測る時は何をつかいましたか。
 C ものさし
 C 30センチメートルものさし
 T かさもはかる時につかう道具がありません。
 C ここで、1リットルますを提示しました。
 T マスと言います。1リットルのかさをはかることができるので、『1リットルます』といいます。

1リットルますを子どもの列ごとに渡し、触って見て確かめたら後ろの子にまわします。
 そのあと、実際に子どもが前に出て、男の子のペットボトル5本分を1リットルますに入れていく作業をしました。わかりやすいように男の子の方は赤色の色水を使いました。女の子の方は青色にしました。
 1リットルますに入れているのを見ながら子どもたちは、ジュースみたい。どっちが多いんやろうか。ドキドキするなどつぶやいていました。授業のふり返りでは、会話だけではどちらが多いかわからない。かさははかる時は「ます」を使うとくらべることができる。など書いていました。
 具体物を提示したり、子どもたち自身が会話や予想をしたりする活動を取り入れることで、子どもたちは「かさ」という言葉や、かさを比べる方法について、興味をもつて考えることができました。実際の授業では、子どもたちの反応を見ながら発問や板書を調整することの大切さも改めて感じました。



4年生の算数 子どもがつまずきを乗り越える 授業準備から

図書 啓展(すしよ ひろのぶ) 大阪みなみ学力研

「わる二位数のわり算」をマスター

4年生の二学期のヤマは何といつても「わる二位数のわり算」のマスターです。

上のような問題です。なぜなのか。

$$21 \overline{) 345}$$

第一に、四則計算の総決算だからです。一問解くのに一年生から学習してきた整数のたし算・ひき算・かけ算・わり算がすべて出てきます。

第二に、マスターすれば計算力に自信を持ち、算数好きになるからです。さらに子どもたちも落ち着いてくるから不思議です。逆に計算できないままならば、算数嫌いになってしまいます。

第三に、高学年が花開く土台になるからです。5年生の算数では、さらに小数同士のわり算が登場します。整数でのわり算をマスターしていれば小数点の移動の理解だけでできます。ところが、整数のわり算す

らできない子にとっては苦痛でしかありません。5年生では算数が一気に難しくなります。高学年での「荒れ」の要因の一つは「わる二位数のわり算」の未習得です。どの子にもマスターさせる意気込みで準備しましょう。

三つのつまずき

「わる二位数」のつまずきは三つあります。一つ目は「アルゴリズム」(計算手順)の未定着です。「たてる」「かける」「ひく」「おろす」の繰り返しで計算することを押さえる必要があります。

二つ目は仮商修正ができないことです。仮に立てた商が大き過ぎれば一ずつ小さくする数感覚が必要です。

三つめは、意外ですが基礎計算の習熟不足のため一問するのに長時間かかってしまうことです。 $5+7$ 、 $2-6$ 、 4×7 、 $3 \div 4$ な

どがすらすらできるよう「さかのぼり学習」を事前にしっかりとしてから、「わり算」の学習をしたいものです。

まず「指かくし法」ですらすらと

アルゴリズムを意識させ、商をたてやすくするために有効な手立ては「指かくし法」です。3位数・2位数で上の問題では、どんな数を12でわって商に何がたつかがわ

345 ÷ 21 の筆算の仕方(指かくし法)

21) 345

① 5を6の135

② 735 ÷ 21 は

③ 両手かくし

④ 3 ÷ 2 は 1

⑤ 21 × 6 は

⑥ 735 - 126 は 9

⑦ 答え 16 あまり 9

私は黒板では指の貼り物二本を使って図
の手順で教え、「わり算の手引き」としてノ

トに貼らせています。□にはたてる

かける
ひく
おろす
：が入ります。

その時、「たゝてる、かゝける、ひゝく、おろす。たゝてる、かゝける、ひゝく、おろす。たゝてる、かゝける、ひゝく、おろす。余りに氣をつけてゝ」と「十人のインディアン」の節に合わせて歌うようにすると楽しくアルゴリズムが定着しますよ。(根無実践)「余りに氣をつけて」の意味は、余りが割る数より小さくなっているか確かめるといふことです。

（大阪市では東京書籍版の教科書を使っていますが今は指かくし法は載っていません。学校図書の教科書では指の代わりに鉛筆を使って紹介しています。）

練習問題の落とし穴に注意

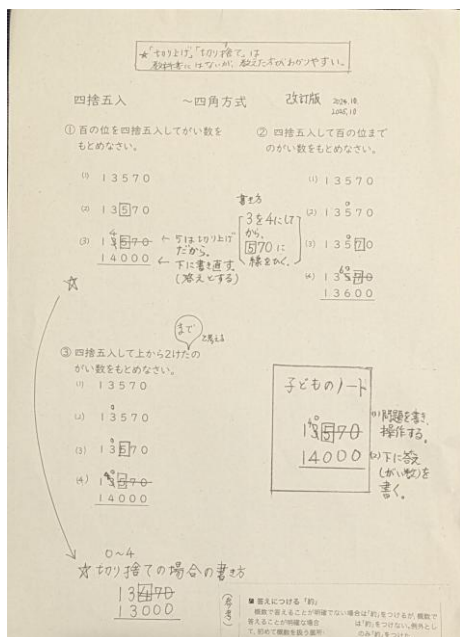
この時間は三位数・二位数の計算手順をどの子にも定着させることがねらいです。

に「仮商修正あり」の問題がすでに入っています。（東京書籍）修正ありの問題は次の時に回すことです。ポイントとなる所では、時間をとる指導計画にすることが大切です。

飯商修正については、二位数・三位数のときから学習します。「さかのぼり学習」のときに「3・4・7」あまり3 のように余りを出すときに繰り下がりのあるわり算（わり算C型）を習熟させれば飯商修正は楽にできるようになります。

「数の表し方」 「計算のきまり」

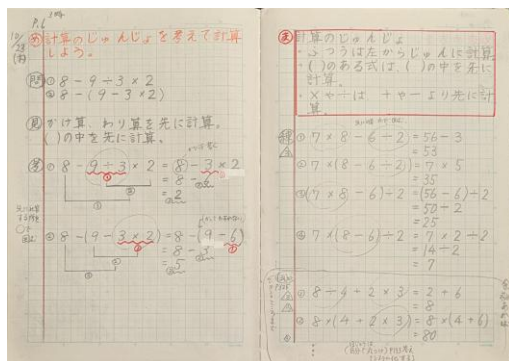
概数では四捨五入の三つの場合の区別を



することがポイントです。そのために有効な手立ては「四捨五入する数字を□で囲むこと」です。資料を参考にしてください。

「計算のきまり」で、子どもは和差積商いろいろな混ざると混乱します。「先に計算するものを○で囲む」と視覚化され、計算しやすくなります。

ノートは毎時間見開き2ページで準備しています。板書はこの内容が三分割されるようになります。次時の板書計画をぜひ準備しましょう。



教科書を見なくなる仕掛けづくり

加藤 英介

はじめに

全国フォーラムが終わり、とある先生が「総合の年間計画や授業づくりなどほどのようにされているのですか」と個人的に質問された。先生方にも、子どもたちにも伝えていることは「総合は、みんなが考えたいな、取り組みたいな、他の教科で学習したことを生かして何かできることはないかなってみんなが心に思っていることを実現できる教科」ということである。

六年生の子どもの中には、国語の時間に寝てしまう子や学習に向き合うことが難しい子が少なからずいる。しかし、総合の学習になると、各教科の教科書を開いて学習を進めているのである。これは、子どもたちの中に「必要感」があるからである。「見学をさせてほしいから、依頼書を書かなきゃ」「特産物を育てたいから、まずは町の有名な野菜について調べたい」など、課題に対して「知りたい、聞いてみたい、やってみたい」など、取り組みたいことが明確に

なれば、必然的に自分に足りていない部分を補う必要が出てくる。その際に、一番見やすく分かりやすいのが教科書である。

テーマ設定から実現に至るまで

全国フォーラムでは、六年生「学校をよりよくしよう」の取組を紹介した。このテーマの背景には、子どもたちの声がもとになっている。「児童会はやりたくない」「言っても、どうせ無理に決まってる」「ごみが多い、汚い」など、決まったことばかりをしていることや伝えても変わらないと諦めてしまい結果として、学校が楽しくないということにもつながっていた。そこで、学年集会を開き、自分が思う理想の学校について考える機会を設け、みんなが主人公であり、みんなが笑顔になる学校にするための取組を考えた。「まずは、担任の先生に聞いてもらおう」と進めた。担任の先生からは「事前にどんな内容なのかを教えてもらわないと判断に困る」という意見をもらっ

たことから提案書を作成することになった。しかしながら、子どもたちは「どうやってつくるの？形式がバラバラだと見にくい」など悩み始めた。そこで、ある子が「国語の教科書に書いてあるよ」と参考にし始めた。これをきっかけに国語の教科書を見ながら提案書を完成させていた。

提案発表終了後、先生たちからは「取組自体はよいが、熱意が伝わらない」という話があった。グループのはずが、一人に任せていたり、相手に伝わらない声だったり、提案内容が無茶苦茶であったりと目標には程遠いプレゼンであった。そこから、子どもたちは担任の先生と相談しながら進めるようになった。急に伝えてもうまくいかないことを知ったからこそ、納得できないところやわからないところが見つかるなどどんな質問するようになった。そして、再提案では無事に合格をもらうことができた。

いよいよ、各委員会が取組へと進めるときのことである。「委員会の活動となつていくのに、五年生の児童には伝えなくてよいのか」と委員会担当や各学年の担任から不安の声が挙がった。それをそのまま子ども

たちに伝え、どう思いかを問いかけた。「そこまで考えていなかった。相手のことを思うと確かに……って思う。みんな主人公なのに置いてきぼりになっている」などの意見が出た。話し合いの最後には「5年生に伝える場面つてありますか。足りないところを手伝ってもらうことはできますか」と次のことを考えて動く姿が見られた。

そして、5・6年生の委員会では話す時間を設けたり、活動で困っている部分を話し合ったりするなど、よりよい学校に向けて進めることができた。「図書館の来客数を増やしたい」と願っていた図書委員会では、本を紹介するポスターでは物足りなさを感じ、読み聞かせライブをすることになった。最初は数人だったが、一週間後には八十人の大盛り上がりで幕を閉じた。この裏側では、何度も本を読む姿や内容が伝わるように、国語の「話す・聞く」を参考にして、最初のつかみに取り入れたり、説明文の型を生かして、ダイジェスト版で伝えたりと工夫しながら当日を迎えていた。

このように、子どもたちが実現したいと思ったことを後押しするだけで、授業で寝

ている子ども前のめりで活動する姿が見られるようになる。そして、実現するためには、教科書で学ぶ必要がある、何度も挑戦しなければいけない。当たり前のようにある教科書を相棒として活用するためには、教師の仕掛けが必要不可欠である。

おわりに

総合という教科の特性上教科書はない。だからこそ、あらゆる教科書を使うことができる。文章なら国語、データで見せたいなら算数、地域について調べるなら社会、描き方なら図工といった具合である。そのためには、たくさんさんの失敗をさせる必要がある。「提案書の書き方がよくない」「伝える内容の整理ができていない」「見やすいポスターつて……」といったことを経験することで、初めて子どもたちは考えようとし、真剣に学ぼうとする。

だが、この失敗をさせるということ自体が難しいのではないだろうか。「一年で成果を出さなければいけない」「決められた時間数の中で取り組まなければいけない」「植物を育てるから絶対に枯らすわけには……」な

ど、教師が失敗を取り除いていないだろうか。数年前までの自分も成功させたいという思いがあった。水やりを毎日したり、手直しを常にしたりする教師。一見、よいように見えるが、子どもたちが学ぶ機会も奪っているといえる。小さな失敗をさせることができる教師の心の広さが必要なのである。失敗したときに安易に答えを渡すのではなく「どうしたらいい?」「何が足らなかったのかな?」と次のステップに向けて待てるかどうかが大切である。

これは、大人になってからも同じではないだろうか。できない自分をさらけ出すことはなかなかできることではない。傷つくことや悔しい思いをすることもあるだろう。だが、「授業がうまくならない」と思うから研究授業やサークルで発表する。指摘を受けたら、改善点を教えてもらったりすることで成長することができる。こうやって、挑戦し続けることが、授業研究をしていく上でも、子どもを成長させる上でも最も重要ではないだろうか。教師が一番の教科書となれるよう、僕自身、どんなことにもチャレンジしていきたいと思う。

「意欲格差」に負けない！公立小学校へ

事務局長 岡本 美穂

実践報告のレポート

1. はじめに

私は公立小学校で二十年間、「目の前の子どもたちに、今、何が必要なのか」を問い続けながら授業改善を進めてきました。

近年、「板書は不要」「一斉授業は古い」といった言説が広がっています。しかし私は、板書・ノート・音読・視写という基礎基本をていねいに積み重ねることで、子どもが主体的に学びをつくる一斉授業が成立すること強く実感しています。

本報告では、1年生から6年生までの国語科を中心に、子どもがつくる一斉授業の具体的な実践を紹介いたします。

2. 板書は「教師の作品」ではなく、

子どもがつくる思考の場

「板書は教師が行うもので、子どもが思考する機会を奪っている。」

私はこの考えに疑問を持っています。板書は教師が一方的に書くものではなく、子どもの発言・線引き・気づきによって動く「生きた学びの場」です。

・子どもの言葉を即時に板書へ反映する
・文章のどこに線を引いたかを全員で共有する
・ノートと板書を往復しながら思考を深める

こうしたプロセスが、学級全体の学びをつなぎ、子どもが主体的に学ぶ授業を支えます。

3. 子どもがつくる一斉授業

国語「スイミー」

(1) 授業の基本構造

みんなで音読(宿題にしない)

教科書の言葉に線を引く・メモする

ひとり ↓ ペア ↓ グループ交流

全体交流

ノートにめあて・ふりかえりを書く

音読を宿題にしない理由は、「学校でできるようにするため」です。音読は学級全体の学びの土台となるため、全員が同じ場で取り組むことを大切にしています。

(2) 子どもの発言が授業を動かす

「なんで『かんがえた』いろいろなかんがえた。うんと考えた」って3回書いてるのかなと思いました。」

この一言から、「うんと」の意味、3回書く必然性、スイミーの心情の変化など、子ども同士の対話が連鎖的に深まっていきました。

教師が説明するのではなく、子どもが読み、子どもがつなげ、子どもが深める授業が成立します。これこそが「子どもがつく

る一斉授業」です。

4. 高学年の深い読み

6年「風切るつばさ」

高学年では、心情の変化や人物の関係性を構造的に読み取る力が育ちます。

「カフラが助けに来たとは書いていないし…よりそって罪悪感を消していると思いました。」

別の児童は、

「死を覚悟して来たと思った。」と読み取っています。

このように、文章の根拠をもとに自分の読みを構築する力が育ち、深い読解へとつながっていきます。

5. ノート指導

― 思考を言葉にするための道具

ノートは「書く場所」ではなく、思考を言葉にするための道具です。

めあてを書く

線を引く

気づきをメモする

友だちの意見をつなげる

ふりかえりを書く

こうした積み重ねが、子どもの言語能力を確実に伸ばします。ノートは子どもの思考の軌跡であり、学びの成長を可視化する重要なツールです。

6. 視写文化の確立

― 全学年での取り組み

視写は単なる書きではありません。

視写は、集中力、丁寧さ、語彙、読みの力を育てます。

「3分で何文字書けるか」

「マスからはみ出さない」

「ペアチェック」など、学校全体で取り組む

ことで、視写が学習文化として定着しました。

7. 連絡帳が育てるもの

連絡帳は、子ども・教師・保護者の三者をつなぐ学びの道具です。

「できるとよくなったことを一緒に喜び関

係が育つ」

ひらがな ↓ カタカナ ↓ 数字 ↓ 日記入と発展し、書けることが増えるほど、子どもは教師に思いを伝え、保護者のコメントも増えていきます。また、学級通信が家庭の学びにも影響し、「できたね」を共有する文化が育ちます。

8. 社会科でも

「教科書 × ノート」で深い学び

6年生の社会科では、教科書の資料を比較し、ノートで思考を構造化します。

法隆寺の想像図比較

冠位十二階の要点整理

大仏造営の背景

古墳の形・費用・工期の読み取り

国語で培った「読む力」が、社会科にも生きていきます。教科書を丁寧に読み取ることで、社会科の学びが深まり、資料を根拠に考える姿勢が育ちます。

9. まとめ

本実践の核は、子どもがつくる「一斉授業

です。板書・ノート・音読・視写という基礎基本をていねいに積み重ねることで、子どもは自分の言葉で読み、考え、つなげることができます。

「子どもたちが一番輝く瞬間は、子どもがつくる一斉授業」

全国「フォーラム」後に、新井先生にこのようなお手紙を送りました。

新井紀子先生

先日は、学力研全国「フォーラム」にて、貴重なお話をありがとうございました。実践報告をさせていただきました岡本美穂です。先生の「ご著書はもちろん、池上彰さんとの対談やAbemaでのお話も拝見しております。前任校では、先生の「ご著書を読み合い、またそれらの映像を教職員で視聴し、「基礎学力の定着こそ最優先の課題である」と改めて共有しながら、実践を進めてきました。

そのような先生の前で実践報告をさせていただいたこと、そして直接お話を伺えたことは、本当に貴重で幸せな時間でした。

私が改めて自己紹介させていただいたのは、本市では私たち現場の教員の力だけでは抗えないほど、大きな「ICT活用の流れが押し寄せているからです。先進的な実践校も多く、11月には堀田先生をお招きした研修も予定されています。教育委員会や指導主事の先生方も「ICT活用を強く推進されており、学校現場では管理職でさえ異なる意見を言いにくい空気があります。だからこそ、自分にできることは何かを考え、「まずは目の前の子どもたちを伸ばすこと」から始めようと思っています。今年度異動したばかりですが、教科書を軸に、基礎学力を育てる授業を着実に積み重ね、その成果を学力研で発信し続けていきたいと考えています。

そんな中、先生が「味方です」と声をかけてくださったことは、私にとって何より心強く、本当に忘れられない言葉に

なりました。迷ったときには、あのお言葉を思い出しながら、子どもたちのために歩み続けてまいります。勇気をいただき、本当にありがとうございました。今後とも、「ご指導のほどよろしくお願いいたします。

最後に

新井先生から頂いた励ましのお言葉と、科学的な分析結果は、私たち学力研の実践を後押しする大きな支えとなりました。

これからは、子どもの学びの姿をより深く見取り、その姿から必要な手立てを導き出し、実践を共有し合うことで、学力研としての学びをさらに高めていきたいと考えています。

実践を報告し合い、交流する場を継続的に持つことが、私たちの次のステップであると感じています。

教科書は教材研究の最高の参考書

水がなぜ生命維持に必要なのか

六年理科「生き物どうしのかかわり」に、次の問題が書かれている。

生き物は、水とどのようにかかわって生きているのだろうか。

地球上の全ての生き物は、水がないと、生存できない。(できないはず。)

でも、それはなぜだろうか。

でんぷんと違って、水自体には養分(栄養)はない。

三年理科の「たねまき」で、「土がかわかないように、ときどき水をやる。」と書かれている。植物が水が必要とするから水をやる、とは書いていないのだ。

『日本国語大辞典』(小学館)で、「水」は、次のように書かれている。

①自然界に広く分布する液体で、海水となつて地表面積の七三パーセントを覆い、水

蒸気となって大氣中に拡散し、水滴となつて雲や霧などを生じ、雨や雪などとなつて地表に降り、川となつて流れ、溜まつて池や湖沼となる。動植物の主要構成要素で、人体の約七〇パーセントを占める。通常、液体で自然の温度のものをいい、湧かしたものは「湯」という。生命の維持や生活に必要な不可欠である。化学的には、酸素と水素の化合物。化学式 H_2O 常温では無色無臭の透明な液体。一気圧では、摂氏四度で密度が最大になり、摂氏零度以下で氷に、摂氏一〇〇度以上で水蒸気になる。溶解力が大きく、最も重要な溶媒。

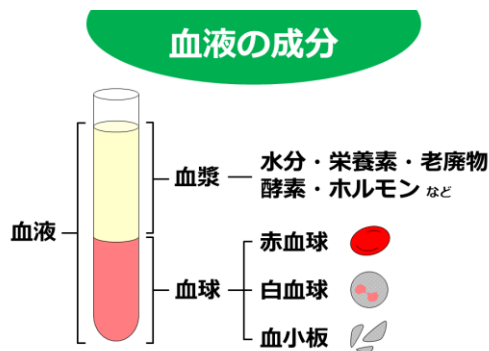
「溶解力が大きい溶媒」であることが、生命維持に関連しているのだろう。

生物にとって水が必要なのは、物を溶かすことができ、液体で流れることができ、 $100^{\circ}C$ にならないければ気体にならないからではないだろうか。

となれば、水はなくても、物を溶かし、流れる液体であり、すぐに気化しないものであれば、代用できるのかもしれない。ただ、地球には、その他の液体と比べて、水が豊富にあるからこそ、水を主体として生き物は使ってきたのかもしれない。

血液は、血漿と血球に分かれ、血漿の中に水分が含まれている。「血漿は、血液から血球成分を除いた残りであり、その大部分は水分です。その中に、栄養素や老廃物、酵素、ホルモンなどが溶けています。」

左の図とともに、SGS総合栄養学院にホームページに載っていた。



そもそも酸素は水にとけにくいのだが、赤血球に含まれるヘモグロビンが酸素と結びつくことで、私たちは酸素を体内に取り

入れることができるわけだ。

人体の仕組みは、うまくできている。

中2理科の教科書『新しい科学2』（平成28年度版、東京書籍）に、血液のことが詳しく書かれていた。

血液の主な成分は、赤血球や白血球などの血球と、透明な液体の血しょうである。採取した血液を置いておくと、液体部分と血球が分かれてくる。

白血球は、からだの外から侵入してきた細菌を食べるなどして、からだを守っている。

赤血球は酸素の運搬を行う。赤血球にはヘモグロビンという物質がふくまれている。ヘモグロビンは酸素が多いところ（肺）では酸素と結びつき、酸素が少ないところ（全身）では酸素をはなす性質をもっている。

赤血球は毛細血管のかべを通りぬけられないが、血しょうはしみ出て組織液となり、細胞のまわりを満たす。組織液には、血しょうにとけて運ばれてきた養分や、赤血球からはなれた酸素がふくまれていて、組織液を通して養分や酸素が細胞に届けられる。また、細胞の活動によって出される二酸化炭素やアンモニアなどの不要な物質も、組

織液にとけてから血管の中にとりこまれる。このようにして、からだ全体で物質のやりとりが行われる。

ヘモグロビンの酸素の多いところと、少ないところで、酸素と結びついたり、はなしたりする、このところが納得できない。

授業「人にとって水が必要なのはなぜか」

【板書】人にとって、□が必要

「□に入る漢字一文字を考えましょう。」

一人指名し、発表させる。

・人にとって、金が必要。

【板書】①金

「□に入る漢字一文字をできるだけたくさん見つけて書きましょう。」

10個見つけた子から、かぶらない1個板書させていく。漢字が20文字ぐらい板書された頃に、

「まだ黒板に書いてない人で、出てない漢字があったら1つ書きましょう。」

黒板が埋まった段階で、発表。

「人にとって必要な漢字一文字のベスト3を選びましょう。板書されてないものも選んでもいいです。」

板書の漢字を読み上げていき、一人3回まで手を挙げさせていく。過半数を超える漢字に、○をつけていく。

「ベスト1に選んだものがなぜ人にとって必要なのか、理由を書きましょう。」

指名なしで、漢字とその理由を発表させていく。

人にとって水が必要なのはなぜか？

水が人にとって必要な理由を書かせて、発表させていく。（略）

『新しい理科4』（令和8年度版、東京書籍）より、次の文章を紹介する。

300 mLの水が氷に変化した。

水をけずることはできないけど、水をけずることはできる。

水は形が自由だけど、氷は四角やまるい形をしている。

水と氷は、同じ物？ちがう物？

変化のなぞ。その答えは……理科を学べば見えてくる。

次に、篠原菊紀・監修『考える力がぐんぐん伸びる！科学のおんじく』（2024.6リベラル社）から、「もしも海の水がなくなっ

てしまったら？」を消化し、どうなるのか
考えて、発表させていく。

青くてうつくしい海。地球のおよそ7わりが海でできています。水の量が多すぎて想像がむずかしいですが、もしも海の水がなくなってしまうたら、地球はいったいどうなってしまうのでしょうか？

まず、海の魚が食べられなくなります。みんなが大好きなおすしのマグロやサーモン、イカは死んでしまいます。海の魚がとれなくなれば、おすしは養殖でしか食べられなくなります。値段も高くなるので、気楽に食べられなくなります。

2ばんめに、雨が降らなくなります。水じょう気がじょう発してくもとなって雨を降りますが、水じょう気のほとんどが海からじょう発したもので、くもはほとんどできなくなり、雨が降らなくなります。雨が降らなければ農作物は育たず、世界中で大ききんになってしまいます。

3ばんめは、夏はもつとあつくなり、冬はもつとさむくなります。水は温まりにくく冷めにくい性質があり、気温差を小さくしてくれます。その海の水がなくなれば、気温差が大きくなってしまいます。砂ばく

◎ 3つの食品のグループと多くふくまれる栄養素 150ページ「栄養素の働きによる食品の分類」

食品のグループ	主にエネルギーのもとになる食品	主に体をつくるもとになる食品	主に体の調子を整えるもとになる食品
多くふくまれる栄養素	炭水化物	たんぱく質	無機質
	米・パン・めん類・いも類・さとうなど	魚・肉・卵・豆・豆製品など	牛乳・乳製品・きのこなど
	油・バター・マヨネーズなど	魚・肉・卵・豆・豆製品など	果物・野菜・きのこなど
食品			
結食のこんだての食品			

のように昼は50度、夜は氷点下のような、極たんな気候になってしまいます。

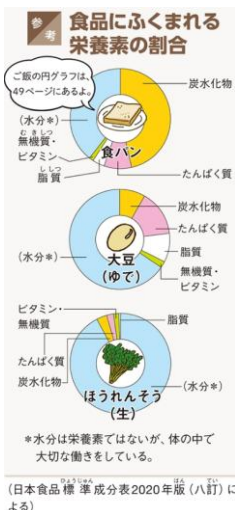
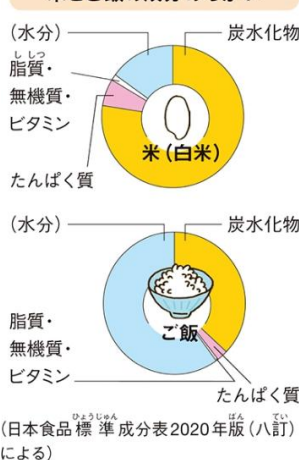
4ばんめは、空気がうすくなります。深い海は、海の底までの平きんがおよそ400メートルくらいです。海がなくなれば、みんながすんでいる場所は、富士山の頂上と同じくらいになります。ふつうにくらすだけで高山病になってしまいます。

海の水がなくなってしまう世界は、とてもいきものがくらしにくいける世界ではないようです。

『わたしたちの家庭科5・6』（令和8年度版、開隆堂）から、栄養素の表を紹介。水に栄養がないのに、なぜ、身体に取り入れる必要があるかを問う。

※ここが、授業の肝になる。栄養分のない水を人が摂取する理由が、とても大事になってくるからだ。

米とご飯の成分のちがい

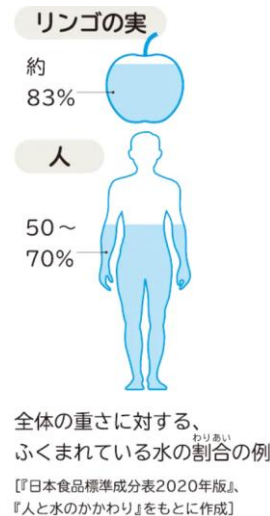


『わたしたちの家庭科5・6』にある「食品にふくまれる栄養素の割合」の円グラフを提示する。

「円グラフを見て気がついたことはありますか。」

- ・どの食品も必ず水がある。
- ・野菜のほうれんそうは、ほぼ水分といってもいい。
- ・お米を炊いてご飯にすると、水分が4倍近くになっている。

ほうれんそうの円グラフの下に、「水分は栄養素ではないが、体の中で大切な働きをしている。」と書かれていることも紹介する。



右のイラストは、6年理科の教科書に載っているものである。人は体重の50〜70%が水である。

「もし、体を切ってしまったら、そこから水が出てくるのでしょうか。」

・血が出てくる。

『新しい科学』にある「血液の成分」の文章(前述)とともに、右下の図を紹介する。血液の約5分の2は血漿であり、それがほとんど水なわけである。

【板書】人にとって、水が必要
「人にとって、いかに水が必要なのかが、改めて分かったでしょうか。」

【板書】人にとって、□が必要

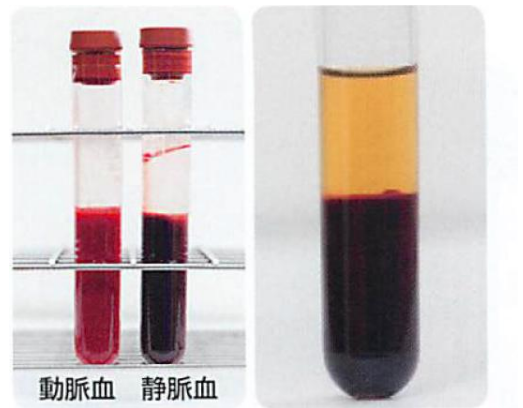


図1 採取した直後の動脈血と静脈血(左)と30分後の静脈血(右)(全てヒトの血液)

「水以外にも、人にとって必要なものがあります。それになぜ必要かを調べてみてはどうでしょうか。」
(授業終了)

血液は、体重の約7〜8%です。それゆえ、血液だけで、体重50〜70%を占めるわけではない。(このことは、授業では扱わない。)

血液を通して、体中にとけこんだ組織液や内臓の筋肉に占める水分などの総量が、体重の50〜70%の水になるのでしょうか。調べれば調べるほど、ヒトの体はうまく作られている。

昔の人が「偉大な神が私たちヒトを創造した」と考えてしまうのも、ある意味うなずけるというものだ。

教科書は教材研究の最高の参考書

今回の授業を作る上で、教科書以外のものも参考にしたが、六年理科の教科書・三年理科・六年家庭科・中学二年科学など、様々な教科書を参考にした。

教科書は、数年ごとに改訂されていく。その過程の中で、教育研究や学術研究や我々教師の実践などの成果が取り込まれていく。

学びの少ない、分かりにくい教科書であれば、採用されないのだから、教科書を作る会社も真剣に取り組まざるを得ない。

さらに、公教育で使われるものゆえ、教科書は何度も何度も間違いがないかを吟味されていく。(それでも間違いはあるが。)

この夏休み、もし、突っ込んだ教材研究をするのであれば、様々な教科の教科書を手にとるところをお勧めする。

大きな図書館にいれば、必ず教科書コーナーもあるので、ぜひ利用いただきたい。「教科書は教材研究の最高の参考書」であることを実感いただけることだろう。

第四時間目「むらからくへ」 続き

学力研常任委員 深沢 英雄

から西暦57年に金印をもらった。

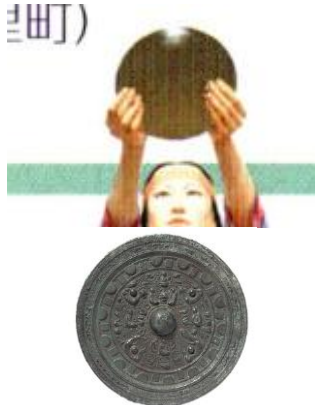


教師：それから182年後、また、魏（中国）の国にみつぎ物をもって家来にしてくださいという王があらわれた。

その時中国は魏という国でした。その魏の歴史書に、「倭（日本）では、いちばん勢いの強い邪馬台国（やまたいこく）が30ほどのくにを従えている。倭は、もとは男の王が治めていたが、争いがたえなかった。そこで、くにぐにが相談し、邪馬台国の女王卑弥呼を倭の王に立てると、争いが終わって平和になった。」と書かれています。「卑弥呼は、神のおつげを伝えて人々の心をとらえ、弟が卑弥呼の考えにもとづいて政治をおこなっている。卑弥呼は人々の前に姿を見せず、女性のめしつかい1000人が、身のまわりの世話をしている。宮殿には物

た。

教師：女の人がもっているものは



鏡です。

教師：できた時は、



弥生時代と同じ材料で作った銅鏡

金色に輝いていました。裏は、顔が映り、鏡になっています。

北九州には多くの「くに」がありました。その中の「くに」が後漢（その時の中国の名前）



4 道跡から出土した剣

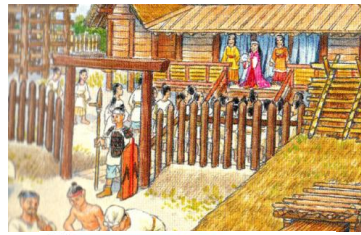
教師：69, 70ページに剣を作っている様子が描かれているけれど見つけよう！

※右上ののっています。



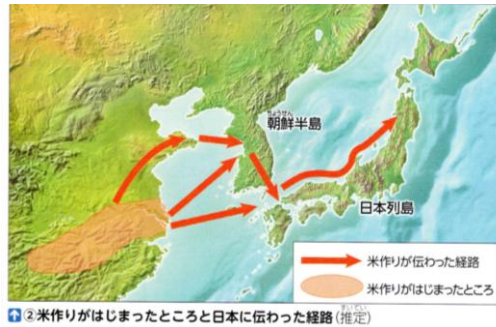
この時代、銅で色々なものをつくりまし

見やぐらやさくを設けて、いつも兵士が守っている。」
と77ページに書いてある教科書を読みます。



海を渡ってきた新しい文化・技術には、米づくり、金属技術（鏡・銅鐸・銅剣）などがありました。
教師：ということは、

入ってきたもの何かぬけているね
子ども：人がきている
教師：そうですね。教科書を見てみましょう。米づくりが日本に伝わった経路は、人々が移動し、米づくりのやり方を伝えていったですね。



教師：邪馬台国の女王卑弥呼。邪馬台国がどこにあるのか、まだわかっていないのです。色んな意見がでていますが、2つの意見が有力です。一つは、奈良を中心とした「畿内説」もう一つは、「九州説」です。



みなさんの中で、大人になって、この謎に挑戦する人がでてくるかもしれません。興味を持った人は、色々な本を読んで、自分なりにどちらにあったか、考えてみるのも楽しいですね。
卑弥呼も人間ですから、亡くなる時がやってきます。この後、どんな時代になっていくのでしょうか。次の時間に勉強しましょう。

「先生のための学校」 誌上 開校

学力研 先生のための学校 校長 久保 齋 2026 8

第20回 先生のための学校

記念講演 「明日も行きたくなる

学級づくり」

赤坂 真二先生

テーマ1

「先生のための学校」20周年記念として赤坂真二先生をお招きし、講演いただくとともに、「先生のための学校」を20年間行なってきた意義を深め、その意義を世に問い、日本の津々浦々に「先生のための学校」が広がることを祈念し、学力研の「先生のための学校」の更なる発展の展望を模索する。

テーマ2

教科書を使った一斉授業のあり方、工夫を「どの子も伸ばす」観点から実践

報告いただき学び直し、学び合う。

・一斉授業の意義が希薄になっている今日、学力研の実践家によるリアルな実践を、教科書の分析、授業づくりの準備なども紹介いただき、学力づくり、授業づくりの工夫、学力づくりと関連して発展するかを報告いただきます。

国語科 李詩愛先生

社会科 岡本美穂先生

深沢英雄先生

算数科 図書啓展先生

理科 荒井賢一先生

・久保が新刊「不滅の一斉授業」：教科書の読解記憶、論理の記憶がどの子も伸ばすという観点から「わかつ

た」を如何に子どもたちの学力としていくかを国語、算数、理科、社会各教科において具体的に提案する。

これは新井紀子先生の提起されたシン読解力の久保流の具体化でもある。

テーマ3

困ったことなんでも相談会

昨年創設の「困ったことなんでも相談会」を発展させ、悩み相談をみんなの課題として話し合い展望を探ります。

クラスづくりの悩みを話し合い、ヒントやアイデアを共有していきます。

22歳から55年間、担任を持ち続け、今も学校で一番困難な子、一番困難なクラスを持ち、立て直し続け、校長からも、同僚からも絶大な信頼を得ている学力研のレジエントや学力研スタッフ参加者で議論し、悩みを分け合って、アンパンマンのパン工場のように、みんな、新しい、顔づくりを進めていきます。

20周年記念「先生のための学校」

記念講演 赤坂真二先生

場所 エル大阪

日時 10月17日(土) 13時開始

司会 荒井

13:00~

はじめのあいさつ 岸本ひとみ先生

13:05~13:25

岡本美穂「先生の学校で学んだこと」

13:25~14:10

久保齋 「不滅の二斉授業 授業つくり・クラスづくり」

14:25~15:50

赤坂真二先生

「明日も行きたい学級づくり」

16:00~16:50

鼎談 司会 深沢英雄

参加費 3500円 (会員3000円)

親睦会 赤坂先生を囲んで

第二回「先生のための学校」

場所 たかつガーデン 30名限定

参加費 2000円 会員 (1500円)

11月14日(土) 13時~16時45分

国語科

「教科書の予習を通してどの子も楽しく参加できる授業づくり」

講師 李詩愛

子どもたちに予習の仕方を少し教えることで、どの子も授業に積極的に参加できるようになり、授業づくりが楽しくなった「こんぎつね」の実践のお話です。どの学年の物語文にも活用可能な取り組みです。

社会科

「社会科教科書の読解記憶・論理の記憶でどの子も伸ばす授業づくり」

講師 久保 齋

社会科の授業は盛り上がりつつも、子どもたちの学力になかなか結びつかないことがあります。それはなぜかを解明し子どもたちの学力獲得の手立てを提案します。ちよとした取り組み、工夫でどの

子も伸ばすヒントをお話します。

第三回「先生のための学校」

場所 たかつガーデン 30名限定

参加費 2000円 会員 (1500円)

12月19日(土) 13時~16時45分

社会科

「教科書とノートが変わる

社会科授業」

講師 深沢英雄(和歌山大学特任教授)

講師 岡本美穂

方法論だけでなく、教科書解釈について改めて学べる機会となる講座です。SNSでは授業の進め方や実例を手軽に知ることができます。しかし、その中には子どもたちの学力を伸ばすことよりも、関心や注意を集めることが目的になっているように感じるものも少なくありません。だからこそ、本講座では教科の本質に立ち返り、教材研究を深めながら、実践と理論の両面から社会科授業を考えていきます。「なぜ、この教材を学ぶのか。」「教科書にはどのような意図が込められているのか。」「そんな問い

を大切にしながら、教科書を深く読み解き、子どもの学びを豊かにする授業づくりについて一緒に考えていきたいと思います。

算数科

「先生問題で数感覚と読解力を高める算数科授業づくり」

講師 久保 齋

教科書通りに進めているだけでは、子どもたちは授業に乗ってきません。

授業の中に、先生自作の問題を二問、二問入れるだけで授業がリアルになり、子どもたちはキラキラしてきます。発表することは明らかに重点が置かれている算数を算数元来の解く喜び、できる喜びにシフトする視点をお話します。

第四回「先生のための学校」

場所 たかつガーデン 30名限定

参加費 2000円 会員 (1500円)

1月9日(土) 13時～16時45分

算数科

「教科書にひと工夫して、つまずきを楽しく乗り越える算数学習」

講師 図書啓展

教科書の教え方プラスひと工夫で算数学習がグッと楽しくなります。子どもたちのつまずきを分析し、どのように楽しく乗り越えればいいかを中心に伝授します。遅れがちな子も伸びる算数学習を作っていきます。

理科

「理科好きにする《理科満点大作戦》問題づくりVS教科書丸写し」

講師 久保 齋

授業や実験では盛り上がっているのに、テストをしてみると成績がさっぱりという子がたくさんいます。なぜ理科の授業が学力と結びつかないのでしょうか。よい授業をした限り満点を取らしてやりたいものです。満点をとれば子どもは間違いないけどの子も理科好きになります。そんな取り組みをお話します。

第五回「先生のための学校」

場所 たかつガーデン 30名限定

参加費 2000円 会員 (1500円)

2月13日(土) 13時～16時45分

理科

「子どもたちのやる気を刺激する理科・生活科の組み立て方」

講師 荒井賢一

チョウを見たことがない子はいないのに、チョウについて知っていることを一つも書けない子どもがいる。でもそれは書く観点を知らないのであり、書き方を知らないだけである。また知っていることは理解していることではない。授業の組み立て方、単元の構成によって、子どもたちのやりたいを刺激し、子ども一人ひとりを伸ばすことができる。

国語科

「国語満点大作戦 逐語的読解から真の読解への2つの壁克服の道」

講師 久保 齋

逐語的読解指導を行い、市販テストで満点をとらせる。しかし、それで終わっては真の読解力は道半ばです。真の読解力を身に付けさせるためには、「意味として読む訓練」と「文章化する訓練」の2つの壁を乗り越える取り組みをクラス挙げて行うことが必須です。この方法についてお話します。

局長だより 8月

◇学力研最新情報 岸本 ひとみ OHPリニューアルしました

全国フォーラムの申し込みを、学力研HPからされた方は、すでにお気づきと思いますが、HPを大幅リニューアルしました。ロゴも、トップページも変えました。これまでのものとは、印象もガラリと変わったと思います。

 **全国に広がる 学力研**
<https://gakuryoku.info/>

上げた時には、
最初にHPを立ち
これほどニーズが

実は、更新するのは約20年ぶりです。つまり、下にある「先生のための学校」ができた頃に、必要に迫られて、HPを設けました。そこから、今年まで、あまり変更せずにきてしまいました。ブログの入力形式がNucleusからWordPressに変わったので、編集する側としては、とても楽になりました。

高まるとは予想してなかったので、20年間で隔世の感があります。

〇〇意見をお願いします

まだWordPress初心者ゆえ、テキストを見ながら、ポチポチと更新作業をしているような有様ですが、ぜひご覧になつて、ご意見をいただけたらありがたいです。



が
お得意な方が会員に
おられたら
ぜひ編集作業を
手伝っていただけ
たらとも考えています。

今や、インターネットがない環境は考えられない時代になってきています。Webデザイン

◇事務局だより 岡本 美穂

全国フォーラムで新井先生から頂いた励ましと科学的な結果は、私たち学力研の歩みを確かなものにしてくれました。

これからは、子どもの姿をより丁寧に見取り、そこから必要な手立てを考え、実践を共有し合うことで、学力研としての学びをさらに深めていきます。互いの実践を報告し合い、交流することを大切にしながら、子どもの学びを中心に据えた研究を進めてまいります。

●第20期先生のための講座

20周年記念 特別記念講演会

「先生のための学校」は、教師が学び続ける場をつくりたいという思いから始まりました。授業づくりに悩む教師が一人で抱え込むのではなく、互いの授業を持ち寄り、子どもの姿を中心に語り合う場をつくることを目的として研究会が立ち上がりました。

■場所：エル大阪 ■プログラム

『先生のための学校で
学んできたこと』

岡本美穂先生

『不滅の一斉授業』

久保 斎先生

『明日も行きたい学級づくり』

赤坂真二先生

上越教育大学

学校教育専攻科教授
主な著書に、「気になる子」のいるクラスがまとまる方法」「ス

ペシヤリスト直伝「学級づくりの極意」、他多数。

鼎談

- ・ 赤坂真二先生（パネリスト）
 - ・ 久保 斎先生（パネリスト）
 - ・ 岡本美穂先生（パネリスト）
 - ・ 深沢英雄先生（ファシリテーター）
- <https://www.kokuchipro.com/event/9e9d7f05d09f7d402e7feca9e979208f>

●メルマガの登録

よろしくお願ひ致します。

「まぐまぐ学力研」

学力研カレンダー



《各地のサークル・部会 2026年 8月 例会、イベント》

どなたでもご参加いただけます。お誘い合わせのうえお越しください。お待ちしております。

※会場等使用状況により、変更の可能性もありますことをご了承ください。

8/

21 (金) 春日井学力研 17時半～ レディヤン春日井 山口 080-6904-1697

9/

4 (金) いろえんぴつ 18時～ コミュニティーセンターおおべ 岸本 090-9117-6330

16 (日) 社会科実践研究会 李 iwamotoshie@gmail.com

26 (土) みなみ学力研 9時45分～12時 阿倍野区民センター 図書 nobu580701@yahoo.co.jp

26 (土) 大阪教育サークルはやし 午後 エルおおさか 荒井 aik28501@bca.bai.ne.jp

オンライン開催のサークルには、参加方法を連絡先にお尋ねください。

他サークルも活動していますので、翌月以降の日程のお尋ね等のご連絡ください。

○ 伊丹学力研 18時半～ 伊丹市役所横サイゼリヤ 前田 090-9715-3830

《全国キャラバン等 今後の予定》

○ 学力研 1年生講座 8月29日(土) 13:30～14:30 オンライン

○ 20周年記念 先生のための学校 10月17日(土) 13:00～16:45

特別記念講演 赤坂真二先生 (上智教育大)

岡本美穂「先生のための学校で学んできたこと」

久保齋「不滅の一斉授業」

深澤英雄を加えた鼎談

(詳細はメルマガ「まぐまぐ」、「こくちーず」などで)

(講師派遣希望、サークル情報などは 事務局へ 079-426-5133)

ご意見・ご感想は下記まで

荒井 賢一 E-mail aik28501@bca.bai.ne.jp

李 詩愛 E-mail iwamotoshie@gmail.com

堀井 克也 E-mail katsuya4k1h9@gmail.com

古東 秀一 E-mail kohigasi1201@gmail.com